

【旧約聖書日課】イザヤ書 52章1～10節

1 奮い立て、奮い立て

力をまとえ、シオンよ。

輝く衣をまとえ、聖なる都、エルサレムよ。

無割礼の汚れた者が

あなたの中に攻め込むことは再び起こらない。

2 立ち上がって塵を払え、捕らわれのエルサレム。

首の縄目を解け、捕らわれの娘シオンよ。

3 主はこう言われる。

「ただ同然で売られたあなたたちは

銀によらずに買い戻される」と。

4主なる神はこう言われる。初め、わたしの民はエジプトに下り、そこに宿った。また、アッシリア人は故なくこの民を擄取した。5そして今、ここで起こっていることは何か、と主は言われる。わたしの民はただ同然で奪い去られ、支配者たちはわめき、わたしの名は常に、そして絶え間なく侮られている、と主は言われる。6それゆえ、わたしの民はわたしの名を知るであろう。それゆえその日には、わたしが神であることを、「見よ、ここにいる」と言う者であることを知るようになる。

7 いかにか美しいことか

山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。

彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え

救いを告げ

あなたの神は王となられた、と

シオンに向かって呼ばれる。

8 その声に、あなたの見張りは声をあげ

皆共に、喜び歌う。

彼らは目の当りに見る

主がシオンに帰られるのを。

9 歓声をあげ、共に喜び歌え、エルサレムの廃墟よ。

主はその民を慰め、エルサレムを贖われた。

10 主は聖なる御腕の力を

国々の民の目にあらわにされた。

地の果てまで、すべての人が

わたしたちの神の救いを仰ぐ。

【福音書日課】ヨハネによる福音書 7章25～31節

²⁵さて、エルサレムの人々の中には次のように言う者たちがいた。「これは、人々が殺そうとねらっている者ではないか。²⁶あんなに公然と話しているのに、何も言われない。議員たちは、この人がメシアだということを、本当に認めたのではなからうか。²⁷しかし、わたしたちは、この人がどこの出身かを知っている。メシアが来られるときは、どこから来られるのか、だれも知らないはずだ。」²⁸すると、神殿の境内で教えていたイエスは、大声で言われた。「あなたたちはわたしのことを知っており、また、どこの出身かも知っている。わたしは自分勝手に来たのではない。わたしをお遣わしになった方は真実であるが、あなたたちはその方を知らない。²⁹わたしはその方を知っている。わたしはその方のもとから来た者であり、その方がわたしをお遣わしになったのである。」³⁰人々はイエスを捕らえようとしたが、手をかける者はいなかった。イエスの時はまだ来ていなかったからである。³¹しかし、群衆の中にはイエスを信じる者が大勢いて、「メシアが来られても、この人よりも多くのしるしをなさるだろうか」と言った。

「良い知らせ」を伝えよう【こども説教のために】

アドヴェント・キャンドルに導かれて歩む「待降節」を迎えました。神の御子キリストのご降誕を祝うために、備えて過ごす期節です。このときに、わたしたちは、ご降誕の「**良い知らせ**」を人々に伝えて過ごすのです。一人でも多くの方が「ご降誕」の祝いを共に迎えられるように。

もともと、わたしたちが伝えなくても、世の人々は「クリスマス」を知っているかもしれません。その日を特別なときとして過ごそうと、もうすでに準備をしているかもしれません。それどころか、その日を待ちきれずに、すでに「クリスマス」の祝いを始めてしまっている人もいます。街を歩けば、「クリスマス」の飾りがされ、音楽が奏でられています。わたしたちよりも世の中の方がよほど賑やかに「クリスマス」を祝っています。もはや、「クリスマス」を祝うために教会に行く必要など無いかのようです。

わたしたちがご降誕の「**よい知らせ**」を世の人々に伝えるのが遅くて、神は待ち切れなかったのかもしれません。教会が伝えるよりも先に、御子キリストは、世の人々の中においでになられ、そのお姿をお示しになろうとされているのです。

人々は、「クリスマス」の中に、御子のお姿を見ることができているでしょうか。神はお待ちくださっているのです、すべての人が御子を知り、本当に御子のおいでくださるのを待つ者となることを。

「待降節」を歩み始めましょう、ご降誕の「**よい知らせ**」を伝えるために。

「奮い立て、奮い立て」

「待降節」の初めに、今年も讚美歌『「起きよ」と呼ぶ声』（『讚美歌 21』230 番）を歌いました。婚宴に招かれるため、夜通し花婿の迎えを待つおとめたちのたとえ（マタイ 25 章）に基づく讚美です。おとめたちは、花婿に迎えられる花嫁の付き添いとして、婚宴に招かれていたのです。けれども、迎えが遅れ、おとめたちは待たされ、皆眠気がさして眠り込んでしまっていました。すると、真夜中に叫ぶ声がします、「花婿だ。迎えに出なさい」と。「起きよ」と呼ぶ声です。おとめたちは、慌てて飛び起き、迎えに応じようとするのです。ところが、夜道に行くためのともし火の油を用意していたのは、半分のおとめたちだけでした。残りのおとめたちは、油の用意を怠っていたため、すぐに花婿に従って行くことができなかつた、というたとえです。

「**奮い立て、奮い立て**」と始まる旧約聖書日課（イザヤ書）は、どこか、これから戦いに赴こうとする戦士を鼓舞する言葉のように聞こえます。ところが、この言葉は、別の翻訳（聖書協会共同訳）では、「目覚めよ、目覚めよ」と訳されているのです。「**力をまとえ**」、「**輝く衣をまとえ**」と続けられているように、この呼びかける言葉は、夜着をまとって、まどろみ寝転んでいる者に、「さあ、起きて、出かけられるように着替えをしなさい」と告げているのです。まるで、家族そろって出かける日になかなか起きてこない子らに声を荒げる親のように、です。

目を覚まして起き上がり、身支度をするのは、出かけるためです。迎えが来ているのです。預言者は、「**あなたたちは…買い戻される**」と主が言われると告げます。主である神が、売り渡されていたあなたを買い戻しに来られたから、従って行く準備をしなさい、と告げているのです。

親として朝、子らに「起きなさい」と声をかけるのが、いまだに日課です。子らの反応は、三者三様です。声をかける前に自分で目覚めて起きている者もあれば、何度も声をかけてようやく目覚める者もある。もっとも、あまり執拗に声をかけると、かえって反発して起き上がろうとしない者もあるようですから、一筋縄ではいきません。

「待降節」を迎えるに際して、皆さんに呼びかけてきました、「目を覚まして、起き上がりましょう。キリストの輝く衣をまとわせていただいて、ご一緒に行きましょう」と。教会は、キリストという輝く衣をまとわせていただくこととして、「洗礼」を授けてきました。主イエス・キリストに従って共に行く者は、キリストを衣のようにまとわせていただくのです。この呼びかけに、躊躇なくお応えくださる方もあれば、なかなか応じきれない方もあります。当然です。焦る必要はありません。ただ、呼び声はいつも響いています。「起きよ。目覚めよ」と。「輝く衣を身にまとえ」と。

「あなたの神は王となられた」

ひとつ心得ていただきたいのは、わたしたちが神の到来を待っているように、実は、神がわたしたちをお待ちくださっているということです。

「あなたの神は王となられた」と預言者は告げています。それは、どこかの国で新しい王が即位した、というような客観的な知らせでしょうか。そうであるならば、わたしたちは、その新王がわたしたちにとって好ましい歓迎すべき王であるかどうか、ということの問題にしましょう。同じ国でも代替わりすれば王がどう振舞うかは異なるのです。国が違えば、王の立ち位置も違うでしょう。王の良し悪しを選び、評価するのは、わたしたちです。

けれども、「神」に良し悪しがあるでしょうか。わたしたちが評価をして選別しようとするものが、「神」と言えるでしょうか。

「あなたの神が、王となられた」。それは、わたしたちが、「神」こそをこの世の王に勝る「王の王」として知るようになること、「神」を真に「神」としてしるようになること、に他なりません。

そのような「神」を知らずにいても、わたしたちは、平気だったのです。平気で、この世の「王」の下に生きてきたのです。「王」の名のもとに為されることを、良いとか悪いとか批評しながら、結局はそこに縛られて生きてきたのです。「それが、この世というものだ」とばかりに。

それは、わたしたちにとって、本当に幸いなことでしょうか。わたしたちが、自分自身であることと言えるでしょうか。自分の足で立ち、自分の心で感じ、自分の頭で考え、責任をもって生きることを選んでいることに、なっているでしょうか。実は、そのような自由を奪われているのではないのでしょうか。奪われていることも気づかないほどに、まどろみの中に置かれて。

「あなたの神が、王となられた」のです。それは、わたしたちが、とらわれから自由にされるためです。自分の足で立ち、自分の心で感じ、自分の頭で考え、責任をもって自分自身を生きることができるようになるためです。主イエス・キリストが生きられたように。

「目覚めて起きよ、キリストの輝く衣を身にまとえ」。まどろんで寝床にしばらくされている者の安逸は、わたしたちの人生に安物の価値しか与えないでしょう。目覚めて起きるのです。キリストの輝く衣を身にまとって、自分の足で立つのです。自分自身を生きるのです。わたしたちだけでなく、わたしたちの家族も友も隣人も、すべての人が、そのように生きることを、わたしたちは願っているのです。待ち続けているのです。

それがわたしたちの人生に高価な値を与えられる道であることを、あのお方はお示しくださるでしょう。お待ちくださっているのです。御子を待望する者を、神は、待ち続けてくださっています。